

■ ■ ■  
□本號口繪原色版『雪の日』は日光町停車場附近の寫生にして、原畫はワットマン四つ切に御座候

□中繪原色版『オレンヂ市場』は千九百一年の製作にして、原畫の大きはタテ二十二吋ヨコ二十六吋に御座候

□次號の挿畫は鈴木錠吉氏の『圍爐裡はた』、松山忠三氏の『飯田橋の朝』、北村定次郎氏の『晴れたる日』、ほかに木版若くは寫眞版一頁を加へ可申候

□本年七月は本誌滿五週年に相成候につき挿繪及記事を多くし、立派な特別號を造りたく、其資金の一部として、主幹大下氏は、是迄自己の參考にと殘し置きし水彩畫のスタデー及スケツチの數多を提供致候につき、御所望の諸君は、後付廣告欄の規定御一覽御申込被下度候

□『みづゑ』殘本整理のため特價發賣を試み申候、御入用の方は廣告欄御覽の上品切にならぬうち御注文被下度候

□會友諸君御便利のため『桑田式包裝』

製作爲させ置候、タテ一尺二寸横八寸五分にて一個金十六錢送料四錢に御座候、相互取扱上極めて便利につき、可相成此包裝を御使用有之度候

□『みづゑ』未着の旨、二十日過になつて御申越の方有之、かゝる場合往々品切にて御送り致されぬ事有之候。本誌は嘗て定期發行日たる三日を遅延せしこと一回も無之候、今後も同様なれば、發行日以後相應の時日を經過し不着のせつは、一應郵便局御取調べの上、御申出有之度候

□郵券にて誌代御送付の方は可相成一錢一錢五厘、三錢切手等にて願度候、二十錢切手など大に迷惑致候

### 近事

△日本水彩畫會研究所十一月例會は二十八日午後開會、出品二百七十點、丸山、岡、永地、岡吉枝の諸氏批評終つて茶話會に移り、各自種々なる隱藝など出て歡笑のうちに薄暮散會したり

△同十二月例會は十九日に繰上げ、批評及講話濟みて後、忘年會を開き種々の餘

興を催したり、デンサンの受賞者は赤城泰舒氏松山忠三氏、水彩畫にては田中太郎吉(横濱支部)、後藤工志、船楯忠三郎の三氏なりし、詳細は來月の誌上に報ずべし

△東海道藤澤にては、奥村博、平野環氏等發起となり、天長節を卜し同地小學校にて水彩畫展覽會を催し、日本水彩畫會横濱支部會員の出品等多數にて盛會なりしと

△新潟縣高田師範學校にては、十一月二十八日繪畫展覽會を催ふし、縣下中等學校、並びに東京青山、山梨、神奈川、長野、茨城等の師範校、及び中學校生徒の製作品を陳列し、參考品としては、大下氏の水彩畫、三宅氏のペン畫、雅邦、玉章、觀山、十畝氏等の日本畫あり、觀覽者千五百名を數へ大に賑ひたりといふ

△日本橋駿河町三越吳服店文房部、及び神田小川町熊野屋にては、ワットマン1906年分一枚二十五錢にて販賣しつゝあり